

14. <must , have to>

4 日本語にきなさい。

◎ **must** マストと **have to** ハフトゥ はどちらも
【～しなければならない】と、義務をあらわす。

(1) I must make dinner.

私は夕食 ()。

(2) You have to read this book.

あなたはこの ()。

(3) He has to get up early.

彼は ()。

(4) Must I make dinner ?

私は ()。

(5) Do I have to run ?

私は ()。

has to は、ハストゥと発音する。

(1)	(2)
(3)	(4)
(5)	

5 穴埋めきなさい。

◎ **must** は、**can** と同じ助動詞なので、疑問文のときは、
【**Must**+主語+動詞の原形～?】のように、主語の前に出る。

(1) 太郎はそこへ行かなければなりませんか。 () () () there ?

(2) 私はなぜ彼に会わなければならないのですか。 () () I meet him ?

(1)			(2)	
-----	--	--	-----	--

6 穴埋めしなさい。

◎ have to の have は一般動詞なので、疑問文のときは、
「Do, Does, Did」を使い、【Do, Does, Did + 主語 + have to ~ ?】となる。

「ドゥダズディドゥたす主語ハフトゥ」と覚えるとよい。

- (1) 私は泳がなければいけませんか。 (2) 彼は夕食を作らなければなりませんか。
() I () to swim? () he () to make dinner?

(1)		(2)	
-----	--	-----	--

7 日本語にしなさい。

◎ must not は「～してはいけません」と禁止をあらわす。
短縮形は mustn't マスントゥとなる。発音注意！

- (1) You must not watch TV. (2) You mustn't eat this cake.
あなたはテレビ ()。 あなたはこの ()。

(1)
(2)

8 穴埋めをして、日本語にもしなさい。

◎**must not** は「～してはいけない」と禁止をあらわすので、
義務の **must** の否定文は **must not** ではない。 なぜなら、
 【義務の否定は禁止ではない】からである。義務の否定は「義務ではない」となる。
 つまり「(義務じゃないから) ～しなくていい」と表現される。以上のことから、
 義務の **must** の否定は **must not** では表せない。よって、義務の **must** の否定は、
don't (または doesn't) have to 「～しなくていい、～する必要がない」となる。

(1) You must run. (否定文に)

You ()() to run.
 あなたは ()。

(2) You must get up early on Sunday. (否定文に)

You ()() to get up early on Sunday.
 日曜日は ()。

(3) Taro must write a letter in English. (否定文に)

Taro ()()() write a letter in English.
 太郎は ()。

※in English

英語で

(1)		(2)	
(3)			

(1)の日本語

(2)の日本語

(3)の日本語

